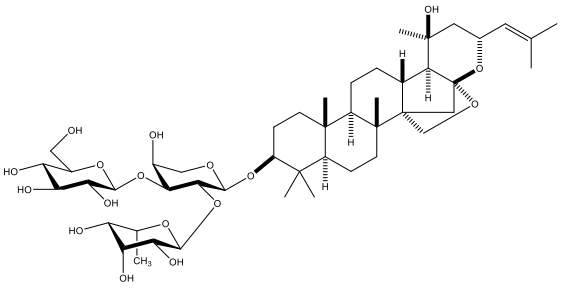
ナツメ

①ナツメの葉・花

②ナツメの果実

③果実（大棗）



zizyphus saponin I

※①・②：東京理科大学 薬用植物園、③：東京理科大学 生薬標本室

学名：*Ziziphus jujuba* Miller var. *inermis* Rehder （inermis＝とげの無い、の意）

生薬和名：タイソウ（大棗）

科名：クロウメモドキ科

形態：中国～西アジア原産の落葉高木で、新梢の節に鋭いとげがあり、これは托葉が変化したものである。芽立ちは遅く、夏になってから芽が出ることから、「なつめ（夏芽）」と呼ばれている。初夏に淡黄色の小さな花をつける。

成分：oleanolic acid, betulinic acid, ursolic acid などのトリテルペン、zizyphus saponin 類などのトリテルペンサポニン、zizybeoside, vomifoliol およびその配糖体

薬用部位：果実

生薬の性状：楕円球形または広卵形で、長さ 2～3 cm、径 1～2 cm、外面は赤褐色で荒いしわ、または暗灰色で細かいしわがあり、光沢をもつ。果肉（中果皮）は暗灰褐色海綿状で柔らかく、核は紡錘形で硬い殻（内果皮）を持ち、種子は卵円形である。弱い特異なにおいを持つ。

用途：強壮・緩和・利尿・鎮痛（腹痛など）・鎮静

漢方としての性質：味は甘。性は微温。

ナツメ（大棗）を含む代表的な漢方薬：葛根湯、甘麦大棗湯、桂枝湯、六君子湯など

備考

- 同じくクロウメモドキ科の植物にサネブトナツメ（*Ziziphus jujuba* Miller var. *spinosa* Hu）があり、ナツメと比較して、托葉が変化した棘が多い。また、ナツメより果肉が薄く、核が大きい。
- ナツメの葉を噛むと、甘みを感じなくなる。これは、葉に含まれる成分が、舌にある甘味受容体をブロックするために起こる現象である。

参考文献

・南江堂　新訂生薬学（改訂第 9 版増補）　木村孟淳，酒井英二，牧野利明（編集）　2021 年　p184, 185

・南江堂　薬用植物学（改訂第 7 版）　木村孟淳，田中俊弘，酒井英二，山路誠一（編集）
2018 年　p190, 191

・公益社団法人日本薬学会　薬用植物一覧（https://www.pharm.or.jp/herb/list.html）より、ナツメ
（最終閲覧日：2023 年 9 月 15 日）

2023.9.15　4YP T.N